世界的にも珍しい熔岩円頂丘

④ 樽前山熔岩円頂丘

日本で有名な活火山といえば、関東地方の浅間山、九州地方の阿蘇山、北海道の旭岳など数多くあります。昔は、今現在活動している、つまり噴火している火山は「活火山」、現在噴火していない火山は「休火山」あるいは「死火山」と呼ばれていました。しかし、火山の活動の寿命は長く、数百年程度の休止期間はほんのつかの間の眠りでしかないことから、噴火記録のある火山や今後噴火する可能性がある火山を全て「活火山」と分類する考え方が広まり、1960 年代からは気象庁も噴火の記録のある火山をすべて「活火山」と呼ぶことにしました。日本には活火山が 111 山あり、そのうちの１つが樽前山です。

樽前山熔岩円頂丘
北海道指定天然記念物　昭和 42（1967）年 3 月 17 日指定
所在地：苫小牧市字樽前国有林
所有者：国
管理者：苫小牧市教育委員会

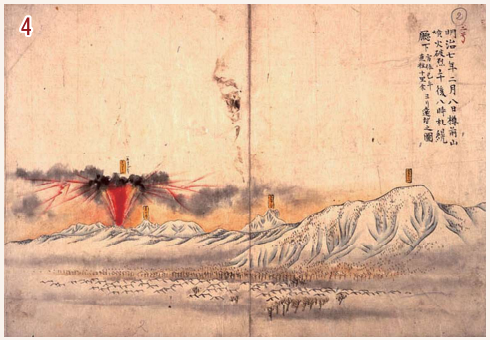
樽前山は、標高 1,041m の苫小牧市街地の北西約 20 ㎞に位置し、現在も火山活動を続ける活火山です。これまでに、9,000 年前、2,500 ～ 2,000 年前、1667 年、1739 年の４回の大噴火をしています。噴出した大量の軽石や火山灰、また発生した火砕流※1の規模は苫小牧周辺の地層から知ることができます。その後は噴火する規模が少しずつ縮小していますが、70 回以上の噴火が記録されています。

山頂部には、直径南北 1.2 ㎞・東西 1.5 ㎞の大きな火口があり、その火口内部は噴出物で埋まり中央火口丘と呼ばれる低い丘のようになっています。さらに中央火口丘の中央には、最大径約 450m、高さ約 120mの溶岩円頂丘（溶岩ドーム）があります。現在の溶岩円頂丘は、明治 42（1909）年の噴火の際に、粘り気が大きい溶岩がドーム状に盛り上がりでき上がったもので、慶応 3（1867）年の噴火でも一度、溶岩円頂丘ができましたが、明治 7（1874）年の噴火で崩壊した経過があります。

樽前山は、外輪山※2、中央火口丘、溶岩円頂丘と３つの火山形態が同心円状に見られることで世界的に有名です。市のシンボルとして市民に親しまれている樽前山ですが、樽前山熔岩円頂丘は、学術的にも貴重な天然記念物であるとして、昭和 36（1961）年、市の指定文化財になり、その後、昭和 42（1967）年に北海道指定の文化財となっています。

※1 火砕流（かさいりゅう）
噴火で火口から出た高温の火山灰などが空気と水蒸気と混合し、高速で斜面を流れ下る現象

※2 外輪山（がいりんざん）
一つの火山の火口内にさらに小さな火山ができた複式火山で、内側の火口を取り囲む環状の山の尾根



写真の解説
1 樽前山熔岩円頂丘の様子（写真提供：苫小牧写真連盟　只野祐一）
2 樽前山遠景（写真提供：苫小牧写真連盟　只野祐一）　3 熔岩円頂丘は噴煙をあげ、硫黄のにおいがする。熔岩円頂丘近辺は、危険なため現在立ち入り禁止となっている　4 明治 42（1909）年の噴火の様子　明治大正期北海道写真目録「樽前山噴火之景」（北海道大学蔵）
5 6 明治 7（1874）年樽前山の噴火した様子を描いた「胆振国勇払郡樽前岳憤火之図 / 船越長善」（北海道大学蔵）